

(2) 人口構造の分析

平成 22 年から平成 52 年の人口増減率は、パターン 1 と比較しシミュレーション 1 では特に年少人口の減少割合が小さくなっている。シミュレーション 2 ではさらに減少割合が小さくなるが、0～4 歳人口の増減率がプラスになる。

年齢 3 区分別の人口割合をみると、シミュレーション 1, 2 とともに年少人口割合は平成 32 年に最も低くなり、その後平成 57 年頃にかけて増加する。

表 2.5 年齢階級別の推計人口と増減率

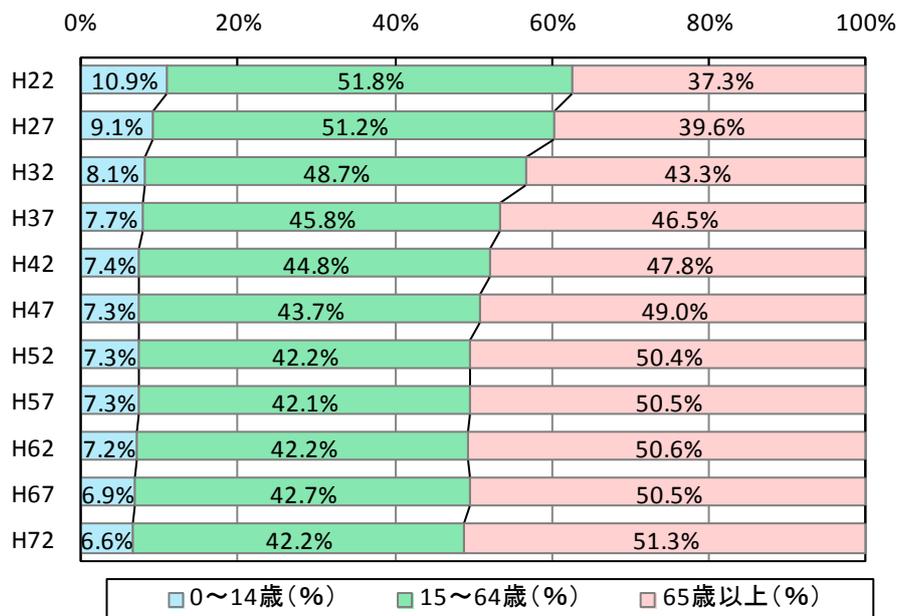
		総人口	年少人口		生産年齢人口	老年人口
			うち、0-4歳			
H22	現状値	10,880	1,185	290	5,633	4,062
H52	パターン1(社人研)	6,668	490	153	2,814	3,364
	シミュレーション1(社人研+出生率上昇)	7,102	806	259	2,932	3,364
	シミュレーション2(出生率上昇+人口誘導)	7,714	1,056	357	3,563	3,095
	パターン2(創生会議)	6,305	410	123	2,472	3,423

		総人口	年少人口		生産年齢人口	老年人口
			うち、0-4歳			
H22→H52の増減率	パターン1(社人研)	-39%	-59%	-47%	-50%	-17%
	シミュレーション1(社人研+出生率上昇)	-35%	-32%	-11%	-48%	-17%
	シミュレーション2(出生率上昇+人口誘導)	-29%	-11%	23%	-37%	-24%
	パターン2(創生会議)	-42%	-65%	-58%	-56%	-16%

参照：国提供ワークシートからの推計値

図 2.5 パターン 1 の人口構造

■パターン 1



参照：国提供ワークシートからの推計値

図 2.6 シミュレーション1の人口構造

■シミュレーション1

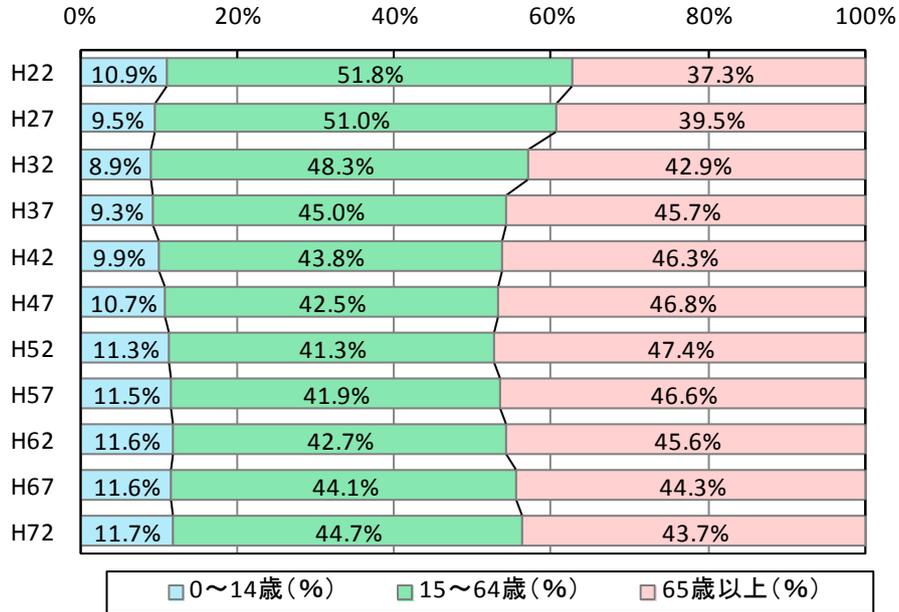
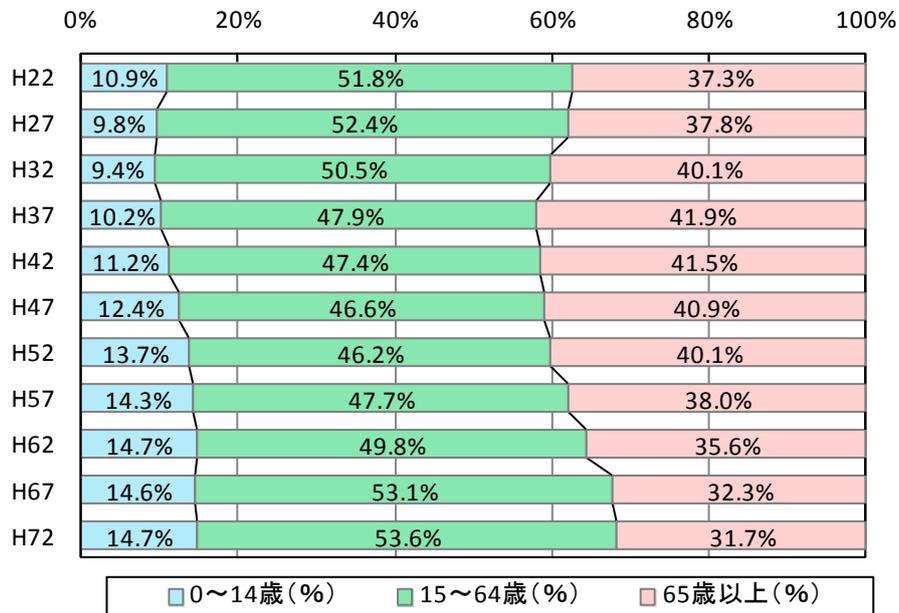


図 2.7 シミュレーション2の人口構造

■シミュレーション2



参照：国提供ワークシートからの推計値